

未来ノート

-202Xの君へ-

テニス

錦織圭

子ども時代の夢

大切にできる言葉

父親からの教え

世界へはばたく

英語力「習うより、慣れる」

ここ3年、世界ランキングでトップ10を維持してきた錦織圭（日清食品）は、

外国メディアの関心も高い。大会での記者会見は最初に英語、その後で日本語の質問に移っていく。

「習うより、慣れる」で身につけた英語力だ。

13歳で米フロリダ州ブラ

デントンのIMGアカデミーにテニス留学をした。「米国に行った当初の英

語力は、ほぼゼロ。日本でも勉強はしていましたけど、覚えていなかった」

今は笑って振り返るが、苦労が相当あった。

ツアー下部大会では審判がつかず、自己申告制の試



記者会見する錦織。英語でも日本語でも対応する。2016年6月

▲リオデジャネイロ五輪、3位決定戦で勝利し、ナダル（右）と握手する錦織

合があった。「僕が日本人だからなめられたのかもしれないけど、外国人は勝つことに貪欲すぎるというか、ずるいやつがいた」

錦織の打球が完全にインなのに、平気でアウトと言われる。「たいてい、泣き寝入りでした。英語に自信がないから、自己主張できなかった。ふだんから、自分から積極的に話す性格ではないですし……」

幸い、ショットで見返すテニスでの実力があつたからハンディを乗り越えられた。苦難を糧にして。

そんな錦織だが、語学の大切さは実感するという。「意思疎通ができるようになる」と、自信がたくし、ゆとりが持てる。今は主審

へのアピールなどコート上

の自己主張はかなり強い。ツアーで世界を転戦する中で感じることもある。

「それぞれの国でのスポーツの浸透度というか、社会での根つき方がわかるし、文化の違いも実感できる。生活する中で日本の居心地のよさが、半端じゃないのもわかります」

未来を担う日本の子どもたちへの伝言は？

「自分の人生をどう歩むかは自由ですからね。ただ、僕は最初から世界のトップをめざしていたから、日本にとどまるという感覚がなかった。チャンスがあれば、常に世界へ、というのは自然なことでした」

◇ (稲垣康介)

次回はプロ野球・日本ハムの大谷翔平選手です。

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。